

	徳島大学 保健系分野（歯学）
学部・研究科名	歯学部歯学科（第1年次：40名、第2年次後期：3名） 口腔保健学科（第1年次：15名） 口腔科学教育部（M：5名、D：18名）
沿革・設置目的	昭和51年、歯学に関する教育・研究を行うことを目的とし、徳島大学歯学部が設置された。 昭和24年（1949年） 徳島大学設置 昭和51年（1976年） 徳島大学歯学部歯学科設置 （平成19年（2007年） 口腔保健学科増設） 昭和58年（1983年） 徳島大学大学院歯学研究科歯学専攻（D4）設置 （平成16年口腔科学教育部に改組： 平成23年（2011年）口腔保健学専攻（M）増設） 平成16年（2004年） 国立大学法人に移行
強みや特色などの役割	○ 自主・自律、進取の気風を求める徳島大学の理念等に基づき、四国の地域性と徳島大学の特色を生かして社会に貢献できるリサーチマインドをもった高度専門職業人・研究者を育成する。学部教育を重視し、医療系3学部7学科と5大学院が揃う徳島大学の利点を生かした多職種協働を担う人材の養成を積極的に推進する。 ○ 口腔免疫疾患、生体材料開発、歯の再生（口腔粘膜由来iPS細胞の作製等）に向けた研究を始めとする各領域における研究実績を活かして、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発・実用化や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担うグローバル人材を育成する。 ○ 医科・歯科連携の強化（栄養部門（NST）への参画、ICU・SCU等への口腔ケア、地域連携パスの構築）、南海トラフ巨大地震を想定した災害歯科医療を担う人材育成、口腔保健を中心とした多職種協働医療が進められる人材の育成等の取組を通じて、四国地方における高度歯科医療及び人材育成の中核的役割を果たす。 ○ 口腔免疫疾患、高齢者、要介護高齢者の問題に貢献し、多職種協働を担う高度専門職業人・歯学研究者の育成のための特色ある領域の全国規模・国際規模のシンポジウム・セミナーの実施、東南アジアを中心とし

た留学生の受入れを推進し、我が国と国際社会の歯学・口腔保健学の質の向上に貢献する。